

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真 後藤
山行 NO. 1997	
日 時 2022 月 10 月 18 日 (土) 晴れ・涼しい	
山 域 奥秩父前衛・小檜山 (古那羅山・1713m) 南西尾根～西尾根	
コース 長泉 5:30 - 牧丘・道の駅 (トイレ) - 塩平 - 南西尾根水道施設 7:51 - 1 回目林道 8 : 56 - 2 回目林道 - 1 5 0 8 m 峰 - 二五六の大きな岩 9:53 - 小さな岩場 10:22 - 幕岩からの道 10:31 - 小檜山 10 : 43 ~ 11 : 40 - 西尾根 - 塩平上の林道 13 : 35 - 南西尾根付き 14 : 04 - 鼓川温泉 - 長泉 18 : 00 (反省会)	
標高差 南西尾根・水道施設約 940m ~ 小檜山 1713m = 約 773m	
藪漕度 なし	
難易度 非常に困難 困難 やや困難 レ普通 やや易しい 易しい	
<b>全山穴だらけのイノシシ山</b>	
参加者 後藤、井上、山田敬、伊藤、齋藤 = 5 名	

定例ハイキングで久しぶりの小檜山。南西尾根は、2016年11月26日以来。前回と同じ水道施設脇から上り出す。猟か林業かの軽トラが2台あった。例によって、最初から物凄い急登。ジッと耐えて頑張るだけ。それでも、ひところ頃より、気温が低くなり楽だった。



南西尾根

やがて最初の林道。林道は南西尾根を絡むように伸びている。遅れた仲間を待って、再び出発。ここから再び急登。

今回の山道は、いわゆる「バリエーション」と呼ばれるもので、「登山道」はない。が、上る尾根は特に藪もなく快適に上れる。

「バリエーション」は、他の登山者は、まず居ない。従って極めて静か。更に登山道が無い故に、自身が「洞察力」を持って、上り・下らなければならない。

特に下りが難しい。上りは、高い所を目指して行けば山頂に着く。下りは、なかなかそうは行かず、沢山の尾根を吟味し、正しいルートを見出す「観察力」が必要だ。事実、今回も大いに苦戦した。



大岩

それにしても、この山は一体何だろう。山中が穴だらけだった。それが登山口から延々と何時間も続いた。穴は、恐らく「イノシシ」のモノ。

これだけの穴があるということは、恐らく、何十（百？）頭のイノシシの仕業だろう。小樽山は「イノシシ山」だった。

紅葉は、ちょっと早い感じだったが、随所に見ごろのモノがあった。山梨北部まで来ると、静岡に少ない「赤」を楽しめる。

小さな岩場を越えると、「差山」や「父恋いし」の登山道と合流する。バリエーションはここで終了し一般道になる。少し下ると看板があった。「母恋し」「妙見山」「幕岩」「焼山峠」「山頂」の分岐。

山頂は、10分程度で到着。今回の山は、バリエーション妙味だが、何ととっても山頂の展望が「売り」だった。ところがどうだろう。自称「晴れ男」のYちゃんが居るにも関わらず、生憎のガスだった。

ただ、ガスは低く垂れこみ、上空は晴れて時々、青空が覗く。しかし、まあ、これだけはどうにもならないので、そそくさと昼食にした。昼食を食べていると、何処かのアベックがやってきた。若い女性が眼前の景色に見とれたのか、何故か皆の前で、ものの見事に「バタン」と転倒した。足元に丸い岩があったのだ。

一瞬、全員凍り付いたが、その後、「全員で大笑い」だった。彼氏・彼女も大らかの方で、その模様を大笑いで、山頂は大いに「盛り上がった」

彼氏・彼女は、夫婦でなく、友人・恋人だった。しかし、若い方はイイ。何があっても笑って過ごしている。そんな感じは、実に微笑ましかった。

そのうち、何かの弾みで甲州人の話題になった。曰く「甲州人と甲州ベー（牛）は、気を付けろ（牛の糞の表面は硬いが中はグジャグジャで踏んだら最悪）」になった。以前の御坂・キノコ屋の顛末、その後の河口湖・ソバ屋のトラブルで盛り上がった。

しかし、その後、この日は、意外な所で甲州人の「気風の良さを」感じるようになることは、この時、思わなかった。



転倒した彼女に記念写真を撮ってもらい下山。結局、霧は晴れなかった。残念。さあ、ここから下山がポイントだった。前は、ナビも無かったが、少しルートを外しつつもママアだった。しかし、今回はどうだろう??

一般道から、バリエーションに入る。帰着しGPS軌跡を見たが、50mほど下った所で、既にルートを外していた。いつも一番感じることは、実際の地形と地図のイメージが違うことだ。

今回は、右に大きく深い谷があった。地図では、その沢がどう見ても見いだせない。難しいものだ。

大昔は勿論、GPSなどなかった。GPS導入のキッカケは、2016年4月30日、KS、KY、私で唐松岳に上った際、物凄いガスによる「完璧なホワイト・アウト」で苦

労した。「ホワイト・アウト」は、富士山でも何回か経験している。深いガスでニッ塚から下りで難儀したこともある。

「ホワイト・アウト」は、ビギナー・ベテラン関係ない。その時、冬も何回か上っている唐松山荘がどうしても分からなかった。時間は迫り夕方になった。完全に「遭難」の言葉が過った。小屋が分からないので、下山を始めた。そうしたら、下から誰か上って来た。小屋の方だった。九死に一生を得た。

ガスは翌日も酷く、縦走は断念し下山。しかし、皆はガスの中の下山に躊躇し、小屋から誰も出てこない。我々ともう1パーティーのみ。「ホワイト・アウト」は、昨日と変わらなかった。兎に角、自身の1m円しか分からない。

上部の岩稜は、何処が山で、何処が絶壁か全く分からず、恐怖の下降だった。その時、もう1パーティーの方がGPSを携帯していた。GPSは、昨日上って来た軌跡が残っているので、それを辿れば安全に下れる。

しかし、それでもダメだった。大いに迷った。生涯で初めて「リング・ワンデリング」（一回歩いた所に回りまわって、再び歩くこと。当事者は、初めてと思っている）を経験した。結果は、惨憺たるものだった。



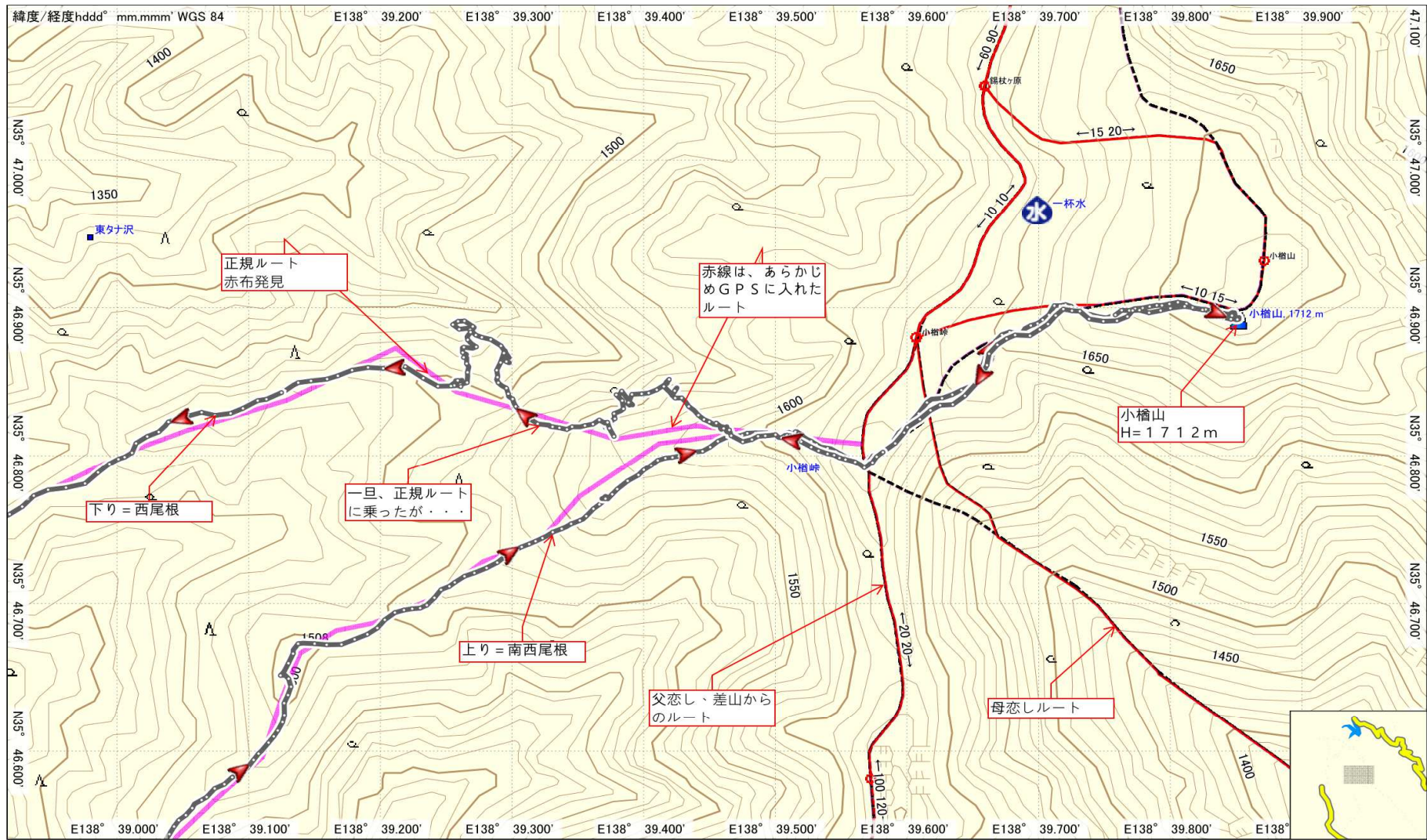
西尾根

結局、前回、2016年11月は、それ程の「外し・迷い」は無かったが、今回はご丁寧にも2回「外した」まだまだ、「精進・研鑽」が必要ですね。

#### 参加者一言

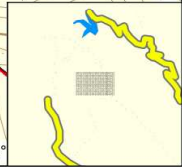
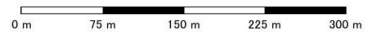
井上・・・尾根の始まりを見極めるのは難しいと改めて思い知らされました。地図読みの練習は大切です。

山田敬・・・自分のYAMAPの軌跡から俯瞰してみると、結果的に大きくは外れていない（修正しながら進んでいる）ので、パリエーションを行くというのは多少の行ったり来たりを含むものと思って臨めばいいのかなと思いました。



Japan Topo 10M Plus V3  
 CarvrisMaple Co., Ltd 2014  
 Garmin Corporation 1995-2014

2022/10/16 5:40:12





西尾根

### 追記

帰路入った鼓川温泉。料金は、露天ありで「540-」それにJAF割引が100-で「450-」  
余り安過ぎて「事故温泉？」と心配した(笑)。女将が「気風」が良くて、好感度でした。